

糸繰沼

長谷川時雨

青空文庫

湖、青森あおもりあたりだとききました、越中えっちゅうから出る薬売りが、蓴菜じゆんさいが一ぱい浮いて、まつ蒼さおに水みず錆さびの深い湖のほとりで午寐ひるねをしていると、急に水の中へ沈んでゆくような心地こころもちがしたので、変だと思つていると、何処どこでか幽かすかに糸車いとぐるまを廻す音がきこえたともうします。おやと氣をつけると、暗いところがほんのり明るくなって、自分は沈みもしなければ浮うきあが上りもしないで、水の中にふつと止まつている。向うを見ると、薄うつすらと人陰ひとかげが見えて、糸を繰くる音がする。心を定めてよく見直すと、品の好よい老女としよりで、糸を繰る手はやめなかつたが、振返ふりかえつて薬売りを流し眼に見て「返してやるのではないが、お前に言便次ことづけをしてもらいたいから、助けてあげる。」と言つて「奥州閉伊おうしゅうへいご郡りの中妻なかづまの里というところに、こういう家うちがあるからその家うちへ行つて、おばあさんは此処ここにこうやつていると伝えてくれ。」と頼まれたかと思うと、おばあさんの姿も、糸車の音も消えて、薬売りは人の助けに生返いきかえつたのでした。無言だまつていろと口をかためられたのですから、薬売りは一人で氣味悪わるるがりながら、その家うちが誠まことにはないようと祈つたり、そんな馬鹿馬鹿ばかばかしいことがありようはないと思つたりして、それでも「池の主ぬしになつているから、姿をかくしたが安心してくれ。」という伝言ことづけをせねば、自分の重い役が一生と

れぬ心こころもち地ちもするので、てくてく中妻の里を忘れもせずに商しょうばい業ぎょうしながら探ねてあるくと、或ある日言われた通りの、門構えの家うちを探ねあてたのでした。薬売りは顫ふるえあがつたそうで、兎とに角主人かくしゅじんにあつて、その顫末てんまつを語りますと、主人のいわれるには、思い当ることがあるというのです。そのお家は近江源氏佐々木家おうみげんじささきと共に、奥州へ下向げこうされたという古い家柄で、代々さかのうえたむらまろ阪上田村磨將軍きゆうせきちの旧跡地きゅうせきちに、郷神社さとじんじやの神官をしていらつしやるとかで、当主より幾代か前の時、長く病わづらつて、一間ひとまに籠こもつたまま足腰のきかなかつたおばあさんが、ふと陰かげをかくして、行方知れずになつたということがあるというのです。そこで水の底で助けて歸されたことを、薬売りが咄はなしますと、主人も驚いたには違いありませんが、その御主人の言葉に「毎まい年秋祭りの前後に、はげしい山おろしが吹荒ふきあれると、中妻のおばあさんが来たということを、里の者は何の訳か言いつたえている。春の祭りがすむころ吹くと、おばあさんが歸つたという。」ときいて、薬売りがぞつとしたのは、水の底にいたおばあさんが「私はこんなに遠くにいても、家うちのことや村のことは守っている。」と言つたのを覚えていたからなのでした。なんでもこの咄はなしはさほど古いことではないのでしよう、私わたくしはその村で、そのお家うちと近しくしている方からききました。そのお家うちの子こども供衆方しゆがたの咄はなしでは、おばあさんの来るといふ日の夜に限つて、山から狐が沢山に下りて、

そのお宅の縁側は、土でぐずぐずになると、きっとその日は雨風で暴^あれるといふことです。

青空文庫情報

底本：「文豪怪談傑作選・特別篇 百物語怪談会」ちくま文庫、筑摩書房

2007（平成19）年7月10日第1刷発行

底本の親本：「怪談会」柏舎書楼

1909（明治42）年発行

入力：門田裕志

校正：noriko saito

2007年11月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

糸繰沼

長谷川時雨

2020年 7月18日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>